

令和3年度実務者会において、今年度取り組むべき地域課題として「居場所」が挙げられ、より具体的に市民の方々のニーズを洗い出すために、関係各位にヒアリングを実施した。その結果の概要の集計を以下の通りにまとめた。

対象者のイメージ

■障害種別

障害種別	身体	知的	精神
	9	26	7

■年齢

年齢	成人	児童
	23	13

■福祉サービス等の利用状況および就労状況

生活介護	その他	移動支援	日中一時	なし	就B	地活	放課後等 デイ	就労	就A
7	5	5	5	1	6	2	6	1	2

集計方法について

グループ対象にヒアリングを行ったものについては、障害種別、年齢等、個別のプロフィールについて計上できていないものがある。

同一と思われる意見については、詳細な部分を省略し、集計するうえで同一意見として計上したケースもある。

居場所のイメージ

■場所

カフェのようなところ	2
芦屋浜のダイエー付近	1
階段がなく、広くてゆったりした場所	1
保健センター、公民館	1
歩いて行ける場所。ブーケやはまゆうなどの既存の場所	1
JR芦屋駅から徒歩圏内・駅前、打出とか。	2
駅近、自転車で通える。広さや開放感がある	1
駐車場がある福祉センターや木口会館	1
事業所の時間延長	1
市内の公的機関の1室	2
自宅近く、交通の便がいいところ	4
駐車場がある	2
事業所の近く	1
市内の事業所で障害種別が得意な事業所がそれぞれ行う。	1
週末の移動式の居場所	1
本人が楽しめて参加できる場所。音楽サークルなどボランティアが運営している場。	1
人とのつながりを作る。話し相手がいる。外出が苦手でも行きたいと思える場所。	1
移動支援利用時に、ヘルパーとふらっと立ち寄れる場	1
子どもを中心に、多世代の交流。助け合い、親睦を図る場	1

■時間

休日の昼間か平日の帰り	1
土日の昼間	1
入浴、夕食ができて団らんして帰るくらいの時間	1
1回あたり2、3時間または半日	1
15時から20時までの2,3時間	1
午前10時から午後3時	1
夕方まで	1
15:30~18:30頃まで	3
17:00頃まで	1
作業所などが終わってから19時ごろまで	3
土日	2
夕方、事業所が終わった後に	1
16:00から20:00	2
6~8時間	1
17時から18時	2
2時間程度	1
朝夕2時間	1

■頻度

週1, 2回	3
月2回	2
週2, 3日	3
月1から始めていずれ週1で不定期で。	1
平日	2
好きな日に行ける。	1
月1回	1
毎日	5
週1回か月1回	1
月2回	2
月1, 2回	1

■費用負担

会費・実費どちらでも	3
実費	4
1000円なら負担できる	1
100円から200円	3
補助金やクラウドファンディングを利用。	1
ごはんが安く食べられるなら実費でも	1
ワンコイン	5
工賃の半分くらい	1
無料	1

■主旨・目的・イメージ

ひとりで行っても、ヘルパーや家族と行っても。	1
ふらっと立ち寄れる。	3
預かりサービスも	1
多世代交流。みんなでワイワイする感じ。	2
自力で通える人が20人くらい集まって自由に話すイメージ。誰でも来られる場所	1
健常者と話ができる場	1
夕方の時間をほっと過ごせるスペース。お茶を飲むゲームをする、テレビを見る。	1
地域活動支援センター	1
10人以下。男性が多くない。他市在住でも使える。	1
障がいのある親子セットの居場所。	1
事業所による専門職による延長支援	1
当事者同士の交流の場から保護者同士でふらっと立ち寄れる場所	1
トイレが部屋の中にある	1
ゲーム、駄菓子屋のイベントがあればいい	1
レスパイト目的。	1
親の情報交換ができる。	2
UNOやおしゃべり、制作などができる	1
送迎ありの居場所。	1
わくわくのような場所。	1
プログラムのある余暇。子ども食堂でも大人の障がいのある方が行けるといい。	1
プログラムのある余暇、生活の教室のイメージ。	1
多世代交流、立ち寄る場、悩み相談、ピアカウンセリング	1
本人の憩いの場所	1
ひとりで通うが家族も参加可能な場所。友達ができ、当事者同士のつながりができる場所。	1
食事を提供する場	1
障がいがあってもなくても入れ替わり立ち代わり1時間ほど過ごす場。	1
居場所事業「おかえり」のようなもの	1

■担い手のイメージ

ボランティアやスタッフを雇う	1
家族や知り合い	2
一緒に遊んでくれる人。福祉職を目指す人の経験の場所になればいい。	1
保健センターで組織を作ってもら	1
福祉団体やボランティアなど	2
地活のスタッフ	1
職員が2人見守ってくれる。	1
はじめは親。次第に地域住民、学生に広げる。	1
施設職員	1
家族	2
障がい理解のある方	2
高齢の方、ボランティアの人、福祉系の大学生	2
事業所の職員とボランティア	1
予算があれば人を雇う。	1
OB	1
専門職、保護者(最初は)、学生ボランティア	1
学生ボランティア	1
障がい理解のあるボランティア	1
ボランティア、NPO	1

■自身は担い手になれるか

頻繁でなければやる	2
手伝ってもいいが報酬が欲しい	2
仕事が決まるまでは手伝える。	1
できる範囲なら手伝う。	1
可能	1
自分の子はしっかり見ます。	1
できない	1
高齢の方などその時間が暇な方。	1
募集してみてどうなるか。	1
難しい	1
家族としてなら	1
自分の子供が参加できるタイミングなら	1
時間があれば可能	1